



ポスターでまちのワクワク感を



町商工会青年部(砂原弘幸部長)が、昨年実施した「しらおいInstagramフォトコンテスト」に寄せられた写真を掲載したウポポイ応援ポスターを製作しました。ポスターは2種類で各200枚製作。商工会会員事業所に配布し、観光客や町民に店頭で白老の魅力を伝えています。

自然豊かな白老の風景や街並み、食べ物などを題材に写真を募ったところ、約580枚の力作が寄せられました。このうち約3分の2が町外からでした。写真の出来は関係者を「えつ、この素晴らしい場所はどこ?」とうならせるナイスショットばかり。「白老の新たな魅力を発見しました」と話しています。

そこでこの写真の活用策として、ポスターを製作しました。砂原部長は「ポスターはわくわくするような写真です。観光客はもちろん、町民の方にも『このまちイナ』と感じてもらえたら」とまちの活性化への効果に期待していました。

情報ノート

高校生、車座で学ぶ



「楽しかったあ〜」。白老東高校の特色ある選択科目「地域学」を終えた生徒がもらった一言。

同科目は、地域(白老町)とアイヌ民族の歴史・文化を学ぶ授業です。外部講師の講演や体験、まちに飛び出した取材、動画の制作などに取り組んでいます。

この日は、さまざまな取り組みを実践している町民との対話を通し、新たな視点に触れる交流会を企画。町地域おこし協力隊として活動する野田和規さん、安田裕太郎さん、同校の地域コーディネーター・佐藤雄大さんの20代3人が「私の見た白老」「白老についての思いや可能性」などについて語りました。

3人は「いろいろなことを体験できるのが高校時代」「物事、受け取り方の問題。今あるものを見つめるとおもしろくなる」などと、社会経験や学生時代の話も交え披露。まちづくりにとどまらない話に生徒らも刺激されたようで、会話を弾ませていました。(5月26日)



森のガイドイベント人気



町地域おこし協力隊の野田和規さん(森林ガイド担当)、安田裕太郎さん(観光振興担当)の2人が、4月からポロトの森周辺で週1回取り組んでいるガイドイベントが人気となっています。

テーマは「自然と暮らしを楽しむ」。自然の美しさを気軽に楽しんでと、トドマツの葉や枝を蒸留したアロマオイルや香水、シラカバの化粧水、植物の観察会、クマザサの野草茶、キハダの軟膏など、森のさまざまな植物(ただし国有林のため同所以外で採取したものを使用)を素材にしたミニイベントを繰り返しています。

これまでに6回の開催で参加者は既に5、60人ほどの好評。町外からの参加者が多いと言います。土曜日・祝日を中心に時間は2時間ほど。ポロトの森キャンプ場ビジターセンターが拠点です。参加費は1人1,000円(12歳以下は500円)。安田さんは「親子連れなど地元の人に、森や自然の不思議に触れるひとときを楽しんでもらいたいです」と話しています。

7月も「スマホにレンズを付けて森歩き」「アワダチソウのしゃぼん玉」「素晴らしきコケの世界」「野草飴作り」などを予定しています。申し込み、詳細は右二次元コードから。



MIMORI.YASOU